

みどりの杜俳句会

空青し皇帝ダリア大輪よ
山崎 才子

砂利をしき庭の水仙芽の短か
茶だんすに折紙サンタ飾りけり
眞向ひて昇る初日にまず祈る
河西カナメ
高橋 ツ子

はじめてや朱の濃き鳥瓜五つ
道普請すみて参道枯葉舞ふ
小宮 勉

山坂にまばらや白の寒桜
散髪へ出かける町や冬日和
風邪の神家を巡りて年を越し
西 ツル
関口 真吾

下草をつき出で野水仙ひらく
忘年会幹事役果てピザ旨し
空透かし我が家見守る赤松は
落合 七郎
谷内 真里

マフラーのぐるぐる巻きに早出かな
木枯や秩父太鼓の鳴らし初め
歴史を持ちて令和となりぬ
金子 圭輔
岩崎 真人

初詣僧の射る矢へ人走る
もみぢ狩り昼餼のそばを相席す
天国よりの苦楽の想い出
大竹 祐也
野口利江子
渡邊阿里子

庭先の山茶花ゆらぎつつ散れり
温泉地足湯の中に紅葉浮く
千野ささ子

数へ日や腰痛忘れ庭を掃く
鳥瓜届かぬ先に紅熟す
岡部富美子

庭椅子に母と二人や玉子酒
鳥瓜藪に絡みて熟したる
土屋 厚子

冬草の朝日を受けて雫せり
しやくしな漬添へ新米の試食かな
関口 侑子

寝て起きて糸糸編む日々山晴るる
裾につく盗人萩や剥ぎとれず
初雁 功子

前山の冬もや上がり晴れ始む
藁縄に束ね釜詰め寒椿
山田 美子

白石短歌会

風邪の神家を巡りて年を越し
七種粥にて追ひ払ひけり
坂本 美江

初詣僧の射る矢へ人走る
もみぢ狩り昼餼のそばを相席す
天国よりの苦楽の想い出
白石 礼子

山坂にまばらや白の寒桜
散髪へ出かける町や冬日和
風邪の神家を巡りて年を越し
西 ツル
関口 真吾

下草をつき出で野水仙ひらく
忘年会幹事役果てピザ旨し
空透かし我が家見守る赤松は
落合 七郎
谷内 真里

マフラーのぐるぐる巻きに早出かな
木枯や秩父太鼓の鳴らし初め
歴史を持ちて令和となりぬ
金子 圭輔
岩崎 真人

初詣僧の射る矢へ人走る
もみぢ狩り昼餼のそばを相席す
天国よりの苦楽の想い出
大竹 祐也
野口利江子
渡邊阿里子

庭先の山茶花ゆらぎつつ散れり
温泉地足湯の中に紅葉浮く
千野ささ子

数へ日や腰痛忘れ庭を掃く
鳥瓜届かぬ先に紅熟す
岡部富美子

庭椅子に母と二人や玉子酒
鳥瓜藪に絡みて熟したる
土屋 厚子

冬草の朝日を受けて雫せり
しやくしな漬添へ新米の試食かな
関口 侑子

寝て起きて糸糸編む日々山晴るる
裾につく盗人萩や剥ぎとれず
初雁 功子

前山の冬もや上がり晴れ始む
藁縄に束ね釜詰め寒椿
山田 美子



人権シリーズ

『多様性と未来』

国や地域、言語や文化、性別、環境、障害の有無、個人の特性など、人間には実に多くの違いがある。また、その「違い」が、ものの見方や考え方などの形成にも影響を与える。更に、それらの「違い」に対する様々な感情が生まれる中、「違い」が受容できないとなった時に、差別やいじめが生じるのである。

「多様性」とは、あらゆる個性（違い）をもつ他者を受容し合い、むしろその「違い」をエネルギーとして、広げ・高め・改善することではないか。

昨年、日本でラグビーワールドカップが開催された。その試合を見た私は、みごとに生かされた「多様性」というものを感じ、感動した。ラグビーには、体型や足の速さ、力の強さなど、あらゆる個性に適応したポジションがあるからだ。今回の日本代表は、海外出身選手が史上最多ということにも好感をもっている。ただ、それに対しては、「日本代表なのに……」という類の心ない残念なバッシングもあったそうだ。

いろいろな国、様々な体格や特性の選手がワンチームとなつて戦うからこそ、よさを発揮し、多くの人達に感動を与えたのである。それは、多様ゆえに成せる技なのであり、「違い」を受容することで、適材適所協力して弱点を克服し、作戦の幅を広げていった結果なのである。この姿こそが、私達皆が目指すべき「日本チーム」「世界チーム」の明日の姿なのだと思う。

東秩父中学校教頭 田嶋 直美